

H26.1.27 設楽ダム魚類検討会 議事概要

○日 時：平成26年1月27日（月） 14時00分～17時00分

○議事概要：

表 H26.1.27 設楽ダム魚類検討会の議事概要

議事項目	議事内容	報告事項	委員の主な意見	意見に対する回答
1.魚類検討会の経緯について	・魚類検討会の経緯について報告した。	・確認した。	・特になし。	・特になし。
2.豊川水系におけるネコギギ遺伝子集団配列の見直しについて	・豊川水系におけるネコギギの遺伝子集団の配列の見直しを行った。	・新たな遺伝子集団を提案した。	・了承される。	・特になし。
3.生息状況モニタリング調査結果について	・これまでのモニタリング調査結果について報告した。	・土砂崩落が発生した淵でネコギギの生息個体の増加が確認された。	・土砂崩落箇所ではネコギギが増加しており興味深い。 ・礫の挙動による空隙の変化は、ネコギギの生息環境にとって重要であると考えため、淵の物理環境データ取得に努めてほしい。	・生息個体数の変化や繁殖が確認されれば、繁殖巣穴調査などの調査を実施し、繁殖環境等のデータ取得に努める。
		・今年度、ネコギギ生息淵に生息するギギの駆除を実施した。	・国内外来種であるギギの駆除は継続するのか。 ・ギギについては、アユの放流時の配慮や駆除など引き続き、漁業協同組合に周知してほしい。	・継続して駆除する効果等を把握するため、駆除は引き続き実施する。 ・引き続き漁業協同組合に周知を行ってほしい。
4.野外実験について	・平成25年度の放流実験について報告した。	・平成25年3月に37個体のネコギギを放流し、半年後の9月に4個体が確認された。	・今回の放流実験で様々な情報が得られて良かったという反面、移植までには確認する項目や改善も必要と考える。今後の検討内容を確認したい。	・繁殖場所の条件を把握し、それを反映させた実験を行い環境整備に反映させる。 ・平成19年度に出水により豊川水系全体でネコギギが減少した原因を整理し、環境改善の整備内容に反映可能か検討する。 ・生残を確認している放流個体の特徴のデータを整理し、可能であれば放流手法に反映したい。
	・平成25年度の飼育・繁殖の進捗について報告した。	・平成25年度で産卵に成功し、10個体の稚魚を得ることができた。 ・平成25年度に支川から繁殖用のネコギギを採捕した。	・低い繁殖率の原因を確認するため、斃死個体の斃死状況を踏まえ、精子の発達状況を確かめてはどうか。 ・支川で採捕して繁殖させた個体について、どのくらいの規模で繁殖させれば、野外実験の目的が達成できるのか。	・今後斃死状況を踏まえ、必要に応じて対応を検討する。 ・3ペアから100個体程度の個体数を得たいと考えている。ただし、放流実験先の河川の規模ごとに淵の生息密度や個体サイズ、また放流直後の生残率等を踏まえ検討する。
5.今後の野外実験の方針について	・今後の野外実験についての対応方針を報告した。	・本川における放流実験の方針について提案を行った。 ・支川における放流実験の方針について提案を行った。	・支川における放流実験において、実験候補の3淵で放流を予定しているのか。 ・支川の実験候補について、どのくらいの規模で繁殖させれば、野外実験の目的が達成できるのか。	・現時点で、実験候補として3淵に絞ったという状況であり、今後詳細を検討する。 ・流量や水質等の根幹に関わる環境条件に関する評価は、既往調査結果を整理し、今後検討していく。

表 H26.1.27 設楽ダム魚類検討会の議事概要

議事項目	議事内容	報告事項	委員の主な意見	意見に対する回答
5.今後の野外実験の方針について	<ul style="list-style-type: none"> 今後の野外実験についての対応方針を報告した。 	<ul style="list-style-type: none"> 本川における放流実験の方針について提案を行った。 支川における放流実験の方針について提案を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 透視度については、ネコギギが生息している河川は透視度が1m～2m以上ある。また、アカザが少ないという点等も含めて、今後詳細に検討し、適切な環境で実験を実施してほしい。 土砂崩落箇所で、自然な空隙が生まれている。実験淵の環境改善手法の今後の整備の参考になるように検討して欲しい。 出水時のシミュレーションに河床の土砂移動も追加できないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在、生物の生息状況等の調査を進めており、結果により判断していく。 さまざまな粒径の石が河川に入り込み、より多くの間隙ができたと考えている。環境改善を実施する箇所では、できる限り情報を反映して対応する。 非常に困難であるが、流量、流速と安定した河床の間隙の関係を整理し、間隙の安定性の予測精度を向上させたい。
6.ネコギギ繁殖場実験について	<ul style="list-style-type: none"> ネコギギの繁殖場実験に関わる調査計画を報告した。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後、繁殖場実験を実施し、繁殖に関わるデータを取得することを提案した。 	<ul style="list-style-type: none"> 繁殖に適した物理環境の把握を人工的な繁殖場により、現地で利用状況を確認するのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 現地でネコギギの観察、及び繁殖している個体を確認した場合は、データ取得に努める。
7.ダムサイト予定地周辺の対応について	<ul style="list-style-type: none"> ダムサイト予定地周辺におけるネコギギの生息状況調査の結果を報告した。 	<ul style="list-style-type: none"> ダムサイト予定地周辺でネコギギが減少傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 特になし。 	<ul style="list-style-type: none"> 特になし。
8.その他魚類の検討について	<ul style="list-style-type: none"> カジカ、ナガレホトケドジョウについて現在までの調査、検討経緯を報告した。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後、調査検討を進めていくことを提案した。 	<ul style="list-style-type: none"> 工事中的ナガレホトケドジョウの対応については。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業を実施する場合、分布域の確認を行い、対応を検討したい。
9.環境省レッドリスト改訂の状況について	<ul style="list-style-type: none"> 第4次環境省レッドリストの公表に伴い新たに重要種となったドジョウについて、環境影響評価の結果を報告した。 	<ul style="list-style-type: none"> ドジョウについては、環境保全措置を検討する必要があることを提案した。 	<ul style="list-style-type: none"> 在来のドジョウが残っている貴重な場所の保全、また狭い場所に隔離して保全するのではなく、川の上流や横断的な周辺のネットワークについても検討してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業の状況に合わせて検討する。